

# Contents

- ・会長退任のご挨拶
- ・次期大会長のご挨拶
  - ・事務局から
  - ・Transmitter(essay)  
温故知新  
前程万里
- ・会員執筆論文紹介
- ・新評議員自己紹介
- ・広報委員退任ご挨拶
- ・編集後記

# JSVN Letter

Volume 6  
April 1, 2021



## 会長退任のご挨拶

獣医神経病学会会長

岩手大学農学部 共同獣医学科 画像診断学研究室

宇塚 雄次

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。今現在は関東地方では緊急事態宣言が発出中であり、静かなストレスの溜まった日々を送られているのではないかと推察いたします。岩手県においても、とにかく毎日新規コロナ感染者の数が公表され、息の抜けない毎日であります。

月日の経つのはとても早く、本学会で小職が会長のご指名を受けもうすぐ3年となりました。ここにこれまでの感謝の念を込めて、簡単にお礼を申し上げたいと思います。

とにかく長と名の付くようなものにはほとんど成ったことの無い自分が会長指名を受け、まず初めは大変に緊張したことを覚えております。しかも、神経病学会の地方開催が始まって数年、そろそろ東北地区でも大会を、という絶妙のタイミングでした。結果、新会長の基調講演と大会長を兼ねるという大役からスタートしました。会場選びはスタートダッシュに出遅れ、やや地の利に恵まれない会場になってしまいましたが、それでも何とか夜の部の出し物で皆さまにそれなりに楽しめて記憶に残る大会ができたと思いホッとしたところでした。そして、今年度予定していた沖縄での学会を乗り切ったらお役目御免と考えていた次第ですが、この緊急事態で全てが予定変更を余儀なくされました。

現在の予定ですが、今年度の基礎講習会(おそらくこの原稿を目にする時には終わっているかも)、次年度の神経病学会はオンライン開催で乗り切ろうと計画中です。その先にはきっとワクチンも普及し、明るい未来と楽しい沖縄開催が待っているのだらうと考えております。私の任期はこの3月までですが、次の執行部がこの難局をしっかりと乗り切ってくれると信じております。

3年のうち最後の1年はほとんど何もできなく、移動も困難でメールでのやり取りのみでした。それでもなんとか役員改選も無事に終わり、おそらく学会として初めてのことでしょうが、郵送による総会も了承されました。この広報誌の発行が私の会長としての最後のお仕事になるようですが、これまでの皆さまのご協力に感謝を申し上げますと同時に、今後のますますの学会の発展をお祈り申し上げます。是非皆さま、次の学会ではオンラインでの元気なお姿をお見せください。



2年目の御茶ノ水での学会の様子：療法食ブース  
(画像提供：ネスレペリナ 中塚様)

# 学会に向けて

## 獣医神経病学会2021に向けて

大会長 日本大学 北川 勝人

2020年は、沖縄で開催予定していた獣医神経病学会も新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。獣医や医学系では中止や延期となった学会もあり、一方ではオンライン開催など工夫を凝らし開催されている学会もあります。神経病学会は、会員の皆様に神経病に関する情報を提供できるように2021年度の学会を開催することになりました。開催方法については議論を重ね、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮してオンライン開催となります。そして例年とは違い、縮小して2つの教育講演と基調講演そして一般演題を予定しています。

教育講演は、神経疾患診療を進める上で悩むことが多い問題行動について、もう一つは多くの症例で使用されているステロイドに関する講演を予定しています。問題行動は、てんかん発作や疼痛など、訴えによっては鑑別診断として挙げる必要があることが多いと思います。しかし、その鑑別が難しいと思います。そこで行動治療学の視点から講演を行って頂きます。診療に役立つ多くの情報を提供できるかと思います。

ステロイドは、中枢性・末梢性神経における炎症疾患、腫瘍性疾患、外傷など多くの場面で使用され、神経疾患治療においては欠かせない薬です。一方多くの症例で使用され、重度の副作用も発現する可能性のあるステロイドの使用に関して悩むこともあると思います。ステロイドに関する講演は、薬理作用について、臨床における使用法についての2部構成で行います。薬理学、臨床の視点からの講演は、効果的に使用できるような情報を提供できると考えています。

基調講演は、北川が脳外科に関する講演を行う予定です。一般演題では例年、研究発表や症例報告があり新しい情報が提供されています。今回も新しい情報が期待できると思います。

2021神経病学会は、初のオンライン開催となり、動画配信を予定しています。教育講演の内容は薬理作用など基礎的な内容も含めています。じっくりと視聴していただければ、理解を深められるものになると思っています。是非奮ってご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

## 事務局から

## 冬期基礎講習会のお知らせ

本年度は獣医神経病学会2020の開催が中止となりましたが、基礎講習会のみオンライン配信を行うこととなりました。ホームページからお申し込みください。なお、会員限定で1日だけ無料配信を行いますので、ご試聴ください。

参加申し込み期間: 2021年2月19日(金)～2021年3月16日(火)まで

配信期間: 2021年3月20日(土)～2021年4月3日(土)まで (会員限定無料配信 2021年4月4日(日)予定)

参加費: 1講義 1,000円

内容: 12. 脳疾患Ⅰ 代表的な遺伝性・先天性疾患	講師: 溝口俊太先生
13. 脳疾患Ⅱ てんかん、脳炎	講師: 溝口俊太先生
14. 脳疾患Ⅲ 脳腫瘍、血管障害、頭部外傷	講師: 溝口俊太先生
15. 脊髄疾患Ⅰ 椎間板関連疾患	講師: 西田英高先生
16. 脊髄疾患Ⅱ 脊椎、脊髄腫瘍、奇形	講師: 西田英高先生
17. 脊髄疾患Ⅲ 脊髄炎、FCE	講師: 西田英高先生

6月には獣医神経病学会2021をオンラインで配信予定です。詳細が決まり次第、ホームページおよび会員メールでご案内します。皆さん奮ってご参加ください。

# 温故知新

「人生は人との出会い」



とがさき動物病院・ご隠居  
前・神経病学会会長・諸角元二

私もとうとう人生を振り返る年になってしまいました。想えば、私には帯広の学生時代から人生の師となってくれる人がたくさんいました。大学の先生ばかりではなく、先輩や同級生の中にも人として立派な人はいました。社会に出ると、学会で知り合った先生方の中にも人生の師となってくれる人がいました。その人たちと出会い、憧れ、尊敬し、生き方や考え方を学びました。私は、今でも感謝しているその人たちに対して、ご恩返しができませんでした。しかし、私がまた違う誰かを支えることができれば、それがご恩返しだと思っています。獣医神経病学会の会員の中には、

まっすぐ前を見て歩いている先生がたくさんいますので、若い先生方は本学会で人生のよき師と出会ってください。

ここに2014年、札幌の柄本浩一先生が大会長をされたときの写真を載せます。サップロビール園に行くときのバスの中で撮ったものです。写っている先生方から掲載の了承はとっていませんが、仲間内なので許して下さい。じっと見ていると、またみんなで会いたくなるような、なつかしい写真です。コロナが終息すれば、さらに立派になっている先輩たちと、このように「密」に会えると思いますので、それまでは自ら向上して下下さい。

## Transmitter 第6回

# 前程万里

「つながり」

小滝橋動物病院 新目白通り第二高度医療センター  
大竹大賀

去る2020年は世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るい、突如として私たちの日常生活に大きな変化をもたらしました。つい1年前は当たり前だったことが出来なくなり、社会的距離を取ることで人々の心の距離も遠くなっているのではないかと心配になります。

3年前から(旅行的な意味合いでも)楽しみにしていた神経病学会 in 沖縄も大変残念ながら中止となったものの、その反面、次回開催の学会で皆様にお会いできることへの期待がより高まっています。

数年前までは一つの感染症に対するワクチンが実用化されるまで10年かかると言われていましたが、新型コロナウイルスに対するワクチンは発生から約1年で実用化されており、医学の急速な発展を感じました。動物の神経病分野でも、てんかん外科を始めとして目まぐるしい程の発展があります。自分を支えてくれるスタッフや周囲の方々とのつながりに感謝しつつ、そうした獣医療の発展に少しでも自分が貢献できるよう、さらに神経病診療の研鑽に励みたいと思います。



新型コロナウイルスによる渡航規制が行われる直前にアメリカで行われた脳外科実習の時のものです。

(講師のクレモンズ先生と共に)

## 会員の先生方の掲載論文(2020年:国際誌)

### 【変性疾患】

- Takaichi Y, Chambers JK, Inoue H, Ano Y, Takashima A, Nakayama H, Uchida K. Phosphorylation and oligomerization of  $\alpha$ -synuclein associated with GSK-3 $\beta$  activation in the rTg4510 mouse model of tauopathy. *Acta Neuropathol Commun.* 2020;8:86.
- Nakata K, Namiki M, Kobatake Y, Nishida H, Sakai H, Yamato O, Urushitani M, Maeda S, Kamishina H. Up-regulated spinal microRNAs induce aggregation of superoxide dismutase 1 protein in canine degenerative myelopathy. *Res Vet Sci.* 2020;25:S0034-5288(20)31085-7.
- Hashimoto K, Kobatake Y, Asahina R, Yamato O, Islam MS, Sakai H, Nishida H, Maeda S, Kamishina H. Up-regulated inflammatory signatures of the spinal cord in canine degenerative myelopathy. *Res Vet Sci.* 2020;S0034-5288(20)31068-7.
- Kimura S, Kamatari YO, Kuwahara Y, Hara H, Yamato O, Maeda S, Kamishina H, Honda R. Canine SOD1 harboring E40K or T18S mutations promotes protein aggregation without reducing the global structural stability. *PeerJ.* 2020;8:e9512.

### 【遺伝性】

- Takaichi Y, Chambers JK, Kok MK, Uchiyama H, Haritani M, Hasegawa D, Nakayama H, Uchida K. Feline Niemann-Pick disease with a novel mutation of SMPD1 gene. *Vet Pathol.* 2020;57:559-564.
- Kobatake Y, Nishimura N, Sakai H, Iwana S, Yamato O, Nishii N, Kamishina H. Long-term survival of a dog with Alexander disease. *J Vet Med Sci.* 2020;82:1704-1707.
- Yu Y, Hasegawa D, Chambers JK, Kojima K, Asada R, Johnson GS, Uchida K. Magnetic resonance imaging and histopathological findings from a Standard Poodle with neonatal encephalopathy with seizures. *Front Vet Sci.* 2020;7:578936.
- Yu Y, Creighton EK, Buckley RM, Lyons LA, 99 Lives Consortium. A deletion in GDF7 is associated with a heritable forebrain commissural malformation concurrent with ventriculomegaly and interhemispheric cysts in cats. *Genes.* 2020;11:672.

### 【奇形】

- Hasegawa D. An objection to "Congenital external hydrocephalus in a dog" *J Small Anim Pract.* 2020;61:714.

### 【てんかん】

- Takamura H, Chongphaibulpatana P, Uzuka Y. Comparison of pharmacokinetics of intragastrically and intrarectally administered levetiracetam tablets in healthy non-epileptic dogs. *Pol J Vet Sci.* 2020;23:491-494.

### 【腫瘍】

- Kishimoto TE, Uchida K, Chambers JK, Kok MK, Son NV, Shiga T, Hirabayashi M, Ushio N, Nakayama H. A retrospective survey on canine intracranial tumors from 2007 to 2017. *J Vet Med Sci.* 2020;82:77-83.
- Narita M, Nishida H, Asahina R, Nakata K, Yano H, Dickinson PJ, Tanaka T, Akiyoshi H, Maeda S, Kamishina H. Expression of microRNAs in plasma and in extracellular vesicles derived from plasma for dogs with glioma and dogs with other brain diseases. *Am J Vet Res.* 2020;81:355-360.
- Narita M, Nishida H, Goto S, Murakami M, Sakai H, Nakata K, Maeda S, Kamishina H. Primary malignant peripheral nerve sheath tumors arising from the spinal canal invading the abdominal cavity in a dog. *J Vet Med Sci.* 2020;82:452-456.
- Tani H, Kurita S, Miyamoto R, Sawada H, Fujiwara-Igarashi A, Michishita M, Azakami D, Hasegawa D, Tamura K, Bonkobara M. Nimustine treatment of 11 cases of canine histiocytic sarcoma. *J Am Anim Hosp Assoc.* 2020;56:146.
- Ito D, Ishikawa C, Jeffery ND, Kitagawa M. Intraventricular carcinoma in a dog. *J Small Anim Pract.* 2020; in press.

## 【外傷】

- Nakano Y, Nozue Y, Nakata K, Fujioka T, Sakai Y, Kamishina H. Case report: transoral penetrating medullo-cervical injury by a chopstick in three cats. *Front Vet Sci.* 2020;7:609869.

## 【外科】

- Hara Y. Transsphenoidal surgery in canines: safety, efficacy and patient selection. *Vet Med (Auckl).* 2020;11:1-14.
- Takahashi F, Honnami A, Toki M, Dosaka A, Fujita Y, Hara Y, Yamaguchi S. Effect of durotomy in dogs with thoracolumbar disc herniation and without deep pain perception in the hind limbs. *Vet Surg.* 2020;49:860-869.
- Tanoue H, Uchiyama R, Fukuda H, Ichinohe T, Kanno N, Suzuki S, Harada Y, Hara Y. Effects of intervertebral distraction screw fixation of the lumbosacral joint on the adjacent lumbar segments in beagles. *Am J Vet Res.* 2020;81:367-374.
- Kouno S, Shimada M, Sato A, Kanno N, Suzuki S, Harada Y, Hasegawa D, Hara Y. Surgical treatment of rostromedullary meningioma complicated by foraminal herniation in the cat. *J Feline Med Surg.* 2020;22:1230-1237.
- Nozue Y, Yamazaki M, Nakata K, Nakano Y, Yuki G, Kimata A, Kamishina H. Case Report: Surgical treatment for intranasal meningoencephalocele in a cat. *Front Vet Sci.* 2020;7:532.
- Fujioka T, Nakata K, Nakano Y, Nozue Y, Sugawara T, Konno N, Maeda S, Kamishina H. Accuracy and efficacy of a patient-specific drill guide template system for lumbosacral junction fixation in medium and small dogs: cadaveric study and clinical cases. *Front Vet Sci.* 2020;6:494.
- Hirano R, Asahina R, Hirano T, Hyakkoku A, Miura R, Kunihiro T, Nakamoto Y. Outcomes of extensive hemilaminectomy with durotomy on dogs with presumptive progressive myelomalacia: a retrospective study on 34 cases. *BMC Vet Res.* 2020;16:476.
- Saitoh Y, Aikawa T, Miyazaki Y, Nishimura M. Long term outcome after surgical resection of a spinal choroid plexus tumor in a dog. *J Am Anim Hosp Assoc.* 2020; in press.
- Kimura S, Nakata K, Sube A, Kuniya T, Watanabe N, Yonemaru K, Maeda S, Kamishina H. Encapsulated gas accumulation in the spinal canal: Pneumorrhachis in two dogs. *J Vet Med Sci.* 2020;82:1354-1357.
- Ito D, Shiozawa N, Sekiguchi N, Ishikawa C, Jeffery ND, Kitagawa M. Repeated surgical treatment and long-term outcome of a cat with vertebral vascular hamartoma. *J Vet Med Sci.* 2020;82:721-725.
- Jeffery ND, Mankin JM, Ito D, Boudreau CE, Kerwin SC, Levine JM, Krasnow MS, Andruzzi MN, Alcott CJ, Granger N. Extended durotomy to treat severe spinal cord injury after acute thoracolumbar disc herniation in dogs. *Vet Surg.* 2020;49: 884-893.

## 【画像】

- Ito D, Ishikawa C, Sekiguchi N, Jeffery ND, Kitagawa M. Utility of "MR myelography" in diagnosis of a presumed spinal subarachnoid diverticulum. *J Small Anim Pract.* 2020;61:782.
- Ito D, Ishikawa C, Jeffery ND, Oshima A, Nakayama T, Kitagawa M. 'T-SLIP' MRI imaging of cerebrospinal fluid flow through the mesencephalic aqueduct. *J Small Anim Pract.* 2020;61:206-207.

## 【再生医療】

- Edamura K, Takahashi Y, Fujii A, Masuhiro Y, Narita T, Seki M, Asano K. Recombinant canine basic fibroblast growth factor-induced differentiation of canine bone marrow mesenchymal stem cells into voltage- and glutamate-responsive neuron-like cells. *Regen Ther.* 2020;15:121-128.
- Nakamura M, Nishida H, Yoshizaki K, Akiyoshi H, Hatoya S, Sugiura K, Inaba T. Canine mesenchymal stromal cell-conditioned medium promotes survival and neurite outgrowth of neural stem cells. *J Vet Med Sci.* 2020;82:668-672.

## 【電気生理】

- Okuno S, Orito K. F-wave parameters for the tibial nerve in Miniature Dachshunds with and without naturally acquired thoracolumbar intervertebral disk herniation. *Am J Vet Res.* 2020;81:422-427.



上段の左側2番目が自分です。

## YPC東京動物整形外科病院 高橋文孝

2018年より本学会評議委員に加わらせて頂いておりますYPC東京動物整形外科病院の高橋文孝です。私は、2007年に日本獣医生命科学大学(獣医臨床繁殖学教室所属)を卒業し、東京都江東区にあるやまぐちペットクリニック(現:YPC東京動物整形外科病院)に入社しました。当院院長である山口伸也先生に、外科のイロハを一からご指導頂きながら、整形外科、脊椎神経外科の世界にドブりと浸かりこみました。その後、社会人大学院生として、日本獣医生命科学大学外科学教室教授である

原康先生に指導頂きながら、2019年に博士号(研究テーマ:犬の環軸椎不安定症の診断および治療に関する研究)を取得しました。

近年、神経疾患の動物は、神経学的検査や各種画像検査を組み合わせることで、診断や治療の幅が広がり、原因がよく分からず、治療が困難であるとされていた動物が治療を受けることができるようになりました。しかし、まだまだ未解明な知見や病態が数多い神経病を診断、治療を行っていくことが現在の仕事の醍醐味であると感じております。大学を卒業し、獣医師になってから、日常の診療で多く遭遇する胸腰部椎間板ヘルニアの犬が、進行性脊髄軟化症を発症し、亡くなっていくことに大きな衝撃を受けました。そのような経験から、本病態を何とか食い止める策を模索し、減圧術と組み合わせ、硬膜切開術を実施することにより、進行性脊髄軟化症を予防できる可能性があるのではないかと考え、当院にて治療してきた結果を2020年に論文に掲載して頂きました(*Vet Surg.* 2020, 49(5): 860-869)。

現在は、コロナ渦がなかなか収束せず、大変な世の中となっておりますが、皆様も健康にはお気を付け下さい。これからも本学会の発展のため、自分の方で出来る限りの貢献ができるように努めていく所存でございますので、どうぞ宜しくお願い致します。

## 広報委員退任のご挨拶

### ● 宇津木真一

初めての広報委員ということもありどうしたらいいかわからない部分もたくさんありましたが、原稿をお願いした先生方とお知り合いになれたり、お考えに触れることができ有意義なものになりました。ニュースレターにご寄稿頂きました先生方ありがとうございました。また、宇塚会長をはじめ広報委員の皆様にお礼申し上げます。これからは読者の立場から広報委員を応援して参ります。

### ● ジェームス チェンバース

第1回から広報誌の編集に関わらせていただき、お世話になりました。今回の広報誌をご覧になって分かりますように、本学会は臨床および基礎の研究が活発であり、動物の神経病については世界トップレベルの専門家集団です。今後も継続して情報発信するために、会員の先生方と協力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 編集後記

諸角前会長と宇塚会長の写真を拝見し、なにげない一瞬ですけども、とても掛け替えのない時だったのだと気付かされます。様々な思いや記録を残す広報委員の仕事は、とても意味ある仕事だと改めて思います。ということで、広報委員をもうあと一期続けて勤めさせていただきます。よろしくお願いいたします。(小澤)

編集長:宇塚雄次

編集委員:宇津木真一 小澤剛 チェンバース・ジェームス 和田昌絵

ご意見窓口:小澤(ozvet@k9.dion.ne.jp)